



---

# IAF活動報告

公益財団法人 日本適合性認定協会  
認定センター

# 本日本話しする内容

---

- IAFの活動
- MLA(相互承認 Multilateral Recognition Arrangement)
- IAF報告～総会、TC(技術委員会)

# IAF (International Accreditation Forum)

---

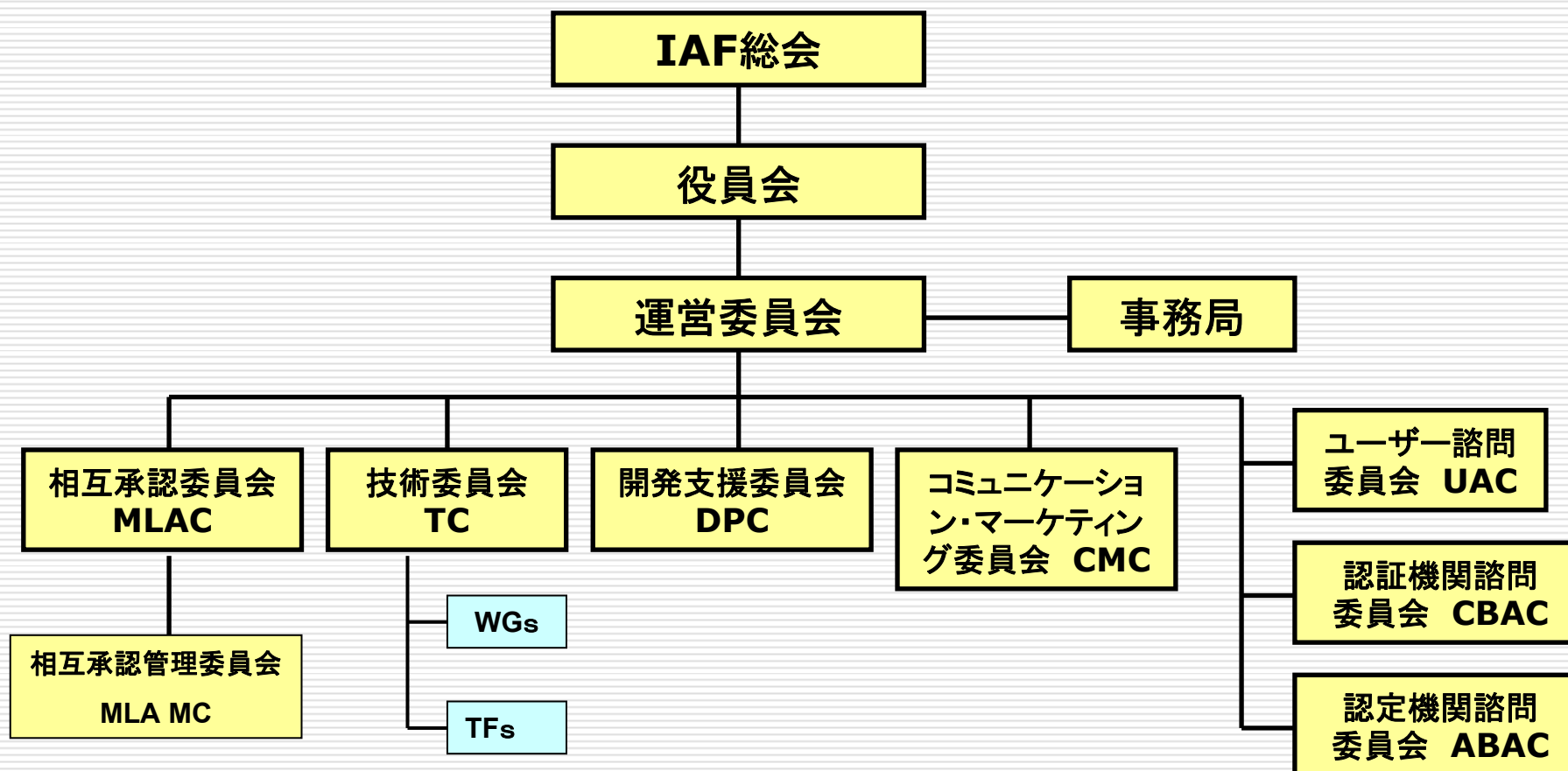
- 1993年発足
- 適合性評価を認定する機関および関係機関の国際組織
- マネジメントシステム認証、製品認証、要員認証、GHG妥当性確認/検証等の分野を取り扱う。
- 目的
  - 業務にふさわしい能力を持ち、利害の抵触がない認証機関のみを認定する。
  - 認定機関間の技術的レベルを整合し、相互承認(MLA)を行う。

# IAFメンバー

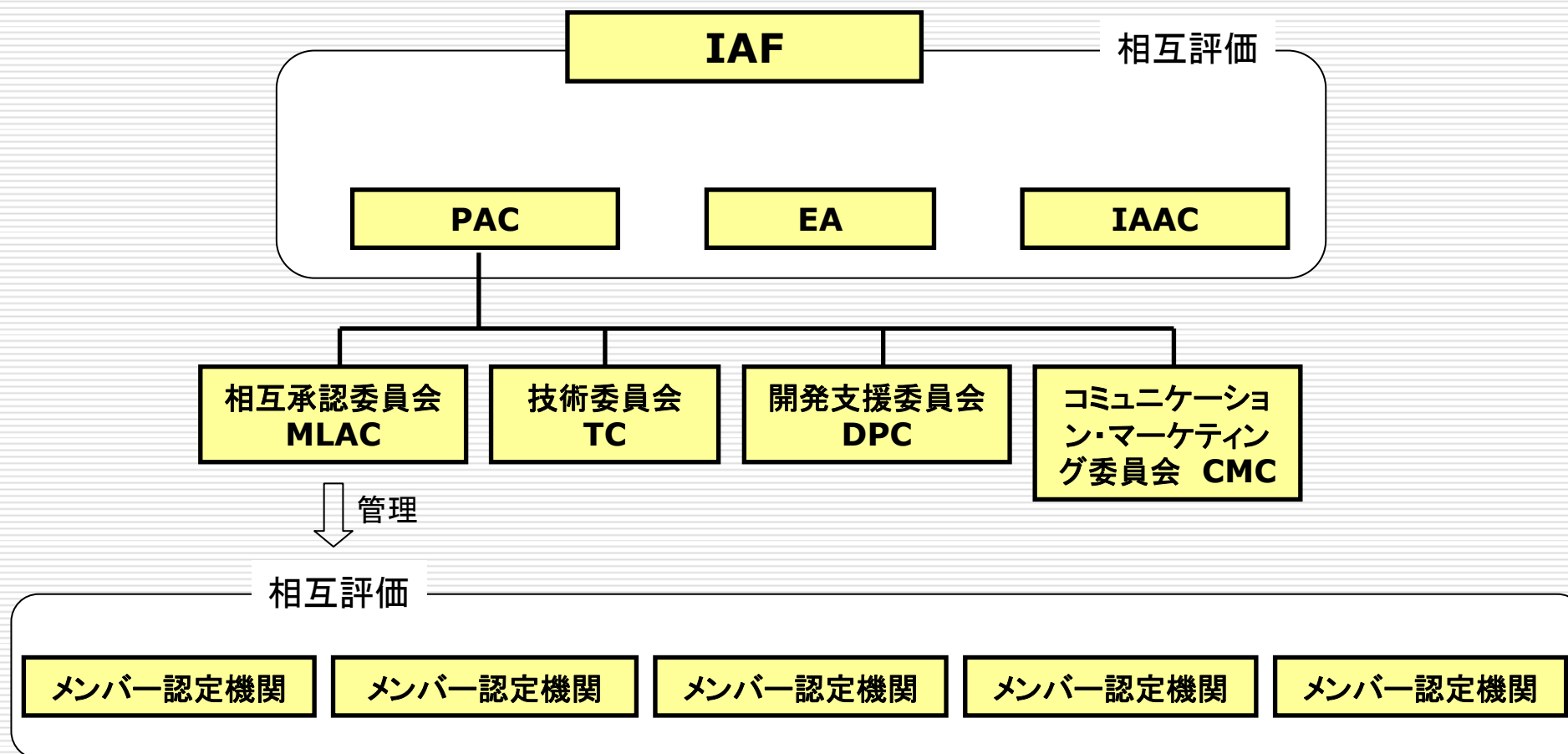
---

- 6地域グループ
  - AFRAC(アフリカ)、ARAC(アラブ諸国)、IAAC(南北アメリカ)、EA(ヨーロッパ)、PAC(太平洋地域)、SADCA(南アフリカ)
- 認定機関メンバー
  - 70機関。うち60機関がMLAメンバー。
- 関連団体メンバー
  - 18機関(認証機関、産業団体、スキームオーナー等)
- オブザーバー
  
- 協力関係: ISO、ILAC(国際試験所認定協力機構)

# IAFの組織構造



# IAF及び地域グループによる相互承認の管理



## IAF MLA(相互承認 Multilateral Recognition Arrangement)

レベル1	認定機関に対する要件:ISO/IEC 17011及びIAF指針	● 認定業務が、互いに同等
レベル2	認定活動の種類:認証機関(MS、製品、要員)、検査機関など	● Peer Evaluationで評価
レベル3 メインスコープ	適合性評価機関に対する要件:ISO/IEC 17065(製品)、ISO/IEC 17020(検査)、ISO/IEC 17021(MS)、ISO/IEC 17024(要員)など	● 認証機関としての能力が同等に信頼できる
レベル4 サブスコープ	分野特有の規格:ISO/IEC 27006(ISMS), ISO/TS 22003(FSMS)など	● 製品認証 ● 要員のMLAを開始 ● GHGのMLAを近々に開始
レベル5 サブスコープ	適合性審査に用いられる規格:ISO9001, ISO14001, ISO13485, ISO/IEC27001, 製品規格(GlobalGap等)など	● 認証が同等である ● QMS, EMS ● ISMS、FSMSのMLAを開始

# PAC MLA(2015年1月現在)

---

## <PAC MLAの範囲>

QMS, EMS, FSMS, ISMS, 製品、要員、GHG

## <MLA調印認定機関の数>

QMS	EMS	FSMS	ISMS	製品	要員	GHG
17	15	10	2	17	相互評価中	4



# IAF/PACの活動

---

## □ IAF

- 中間会議(midterm meeting) :4月
  - 相互承認管理委員会、技術委員会、他
- 総会:10月
  - 全委員会
  - 第28回総会:2014年10月8日~17日

## □ PAC

- 総会:6月
- 相互承認管理委員会:年3回

# IAF総会での主な決議事項

---

- ISO 14001:2015
  - 認証の移行期限を規格発行後、3年とする。
- ISO/IEC 17021-1:2015
  - 認定の移行期限を規格発行後、2年とする。
- エネルギーマネジメントシステム
  - ISO 50001及びISO 50003をエネルギーマネジメントシステム分野の認証・認定基準として適切であると承認する。
  - ISO 50003への適用期間を3年とする。

# ハラール認証

## ～ハラール認証及びハラール認定フォーラムについて

---

### □ ハラール認証

- 食品だけではなく衣料品やホテルなどもカバー。
- 様々なハラール基準があり、政府機関、半官半民、NGOなど多様なスキームオーナーあり。

### □ 統一基準作成に向けて

- OICがSMIICを設立し、統一基準作成を計画。
  - OIC加盟国がSMIIC基準を承認する必要あり。
- 認証/認定の方法、ロゴの統一の必要あり。

### □ ハラール認定フォーラム

- 2016年設立予定

# IAF TC (技術委員会)

---

## □ 活動

- IAF文書の開発/維持/改訂を行う。適合性審査を一貫性のあるものにするを目的
- 必要なIAF文書を開発するために、関連する利害関係者のグループを形成する
- IAF外での認定規格やその他類似文書の開発をモニターし、IAFとして考慮あるいは開発に参加するかどうかを決める
- IAF相互承認の運用から生じた問題を含め、IAF文書の適用に関する推奨を行う

## □ 年2回開催

- 総会開催時およびTC会議のみ
- タスクフォース/ワーキンググループ会議および全体会議

# IAF文書の種類

---

- MD: Mandatory Document(基準文書)
  - 認定機関が、認定を一貫性をもって同等の方法で実施できるように定めるもの。
  - 要求事項
- ID: Informative Document(参考文書)
  - IAFメンバーが認定スキームを開発/改善するための情報を提供する。

## 主なタスクフォース(TF)/ワーキンググループ(WG)

---

- WG
  - マネジメントシステム認証(ISO/IEC 17021)
  - 製品認証(ISO/IEC 17065)
  - 要員認証 (ISO/IEC 17024)
  - 森林認証
  - ISMS (ISO/IEC 27001)
  - ITSMS (ISO/IEC 20000)
  - ISO13485(医療機器QMS)
  - 食品
  - GHG及びエネルギー
  - BCMS
  
- 認定機関の整合の改善(MLA委員会との共同WG)

## 主なタスクフォース(TF)/ワーキンググループ(WG)

---

- TF
  - サンプルングが適用されない複数サイト認証
  - 認定審査員の力量
  - MD5改訂(QMS/EMS審査工数に関する基準文書)
  - 認定審査における立会い
  - 認定審査工数決定のための原則
  - フランチャイズ/下請負
  - 遠隔審査
  - 偽認証
  - ISO 9001/14001移行
  - OHSAS 18001のISO45001への移行

# マネジメントシステム認証に関するWG

---

- WGの概要
  - MS認証の信頼性向上のために設立
  - MS認証に関する事項を広くカバー
  
- 今回の議論～ISO9001/14001改定, ISO/IEC 17021-1発行に伴う対応
  - ISO 14001認証の移行期限を、規格発行後3年とする。
  - ISO/IEC 17021-1への認定の移行期限を、規格発行後2年とする。
  - 次回のTCで9001/14001改定に関する研修を行う。



## 食品に関するWG

---

- これまでの活動
  - FSMS(ISO22000)認証に対しIAF相互承認(MLA)を拡大するために活動
    - 認定審査に関与する要員の力量、組織審査立会のサンプリングに関するIAF文書案を作成
  - ISO22000に関するMLA拡大に向けての活動を終了し、議論の対象を、ISO22000も含め食品全般に拡大。

# 食品に関するWG

---

- 今回の議論
  - 食品安全に関する期待される結果(Expected outcome)
    - ISO9001/ISO14001で作成されたものと同じく、ISO22000認証に関するものを作成する予定。
  - 情報提供
    - ハラル認定フォーラムの設立
    - 食品に関するASEANの相互承認
      - 食品を含む各分野でマーケットの統一、競争力の強化を目的とし、検査や認証の取り入れ、相互承認の実施を検討。
  - GFSI
    - auditor competence scheme/審査員登録スキームの開始
    - 食品偽装に関するポジションペーパー

# 認定審査員の力量に関するWG

---

## □ 目的

- 認定機関の要員の力量に関する文書を作成

## □ 主な議論

- Job Task Analysisという手法を用い、一般的な力量を特定し、文書案を作成中。
- 技術的な力量について検討する。まずはMS認定に関する要員から開始。

# GHG及びエネルギーに関するWG

---

- WGの概要
  - GHGおよびエネルギーマネジメントシステム認証に関する議論
- 今回の議論
  - ISO 50001に関するサーベイ
    - 20ABが認定プログラムを提供
    - 認定されたCB73, 認定審査中11
  - ISO 50001及び50003をIAF承認のEnMS認定/認証基準とすることを提案
  - ISO 50003適用を規格発行後3年とすることを提案

# 認定審査工数決定のための原則に関するTF

---

## □ 目的

- 認定審査（MS、製品、要員プログラムの事務所審査）の工数決定に関する方針を提供する文書を開発する。

## □ 主な議論

- 各認定機関より、工数決定の要素を紹介。CB審査員数やファイルサンプル数を加味するケースなど。
- 各認定機関の方針に関するサーベイを実施し、文書案を作成する。

# フランチャイズ/下請負に関するTF

---

## □ 目的

- 認証機関のフランチャイズや下請負に対する規定、認定審査手法などについて規定する。

## □ 主な議論

- フランチャイズや下請負でくくれない関係/活動も含め、CBの代わりに認証/認証に関連する活動を行う事業者の管理について規定する。
- 主な内容として、CBによる包括的なリスクアセスメント、法的に強制力のある取り決め、内部監査、ABによる審査など。

## 認定機関の整合の改善に関するJWG(MLA委員会との共同WG)

---

### □ 目的

- 認定機関の間での不整合の問題に対応する

### □ 主な議論

- 何を不整合と捉えるべきか。
  - 国際規格の適用は一致しているべきだが、各国の事情を配慮することも重要。
- 認定機関間の不整合に関する問題を取り扱うプロセスとして、例えば、CB→各国のAB→地域ABグループ→IAFが示唆。